

東奥日報

2019年(令和元年)6月14日(金曜日) (14)

電気学会優秀論文発表賞を受賞



工藤さん(南部)「続きは後輩に」

八工大卒 エコ素材の絶縁体研究

八戸工業大学を3月に卒業した南部町の会社員工藤巧さん(23)がこのほど、電気学会優秀論文発表賞に輝いた。同大の指導教員によると、同賞の受賞者は若手研究者や大学院生がほとんどで学部生の受賞はまれ。工藤さんは「自分の研究が認められて光栄。続きは研究室の後輩たちに託したい」と喜びを語った。

(工藤俊介)

工藤さんの研究は、トウモロコシなど植物から生成される「生分解性プラスチック」の一種で、電気を通さない絶縁体になる「ポリ乳酸(PLA)」に関するもの。PLAは固い素材で電線被覆への適用が困難とされてきたが、工藤さんは

サトウキビが原料のポリエチレンとPLAを、薬品を使ってブレンドすることで短所を克服した。

指導した同大工学部電気電子工学科の信山克義教授によると、PLAは石油系プラスチックと異なり、廃棄後は微生物によって分解される環境に優しい素材として関心が高まっている。工藤さんが開発した素材は①環境に優しい②柔らかい③電気絶縁性が良いの3点を備えており、今後の研究次第では子供用のおもちゃなどの材料として利用される可能性もあるという。

「(工藤さんは)非常に真面目で優秀な学生で、何事にも真剣に取り組んでできた成果が表れた」と信山教授。現在は八戸北インター工業団地の多摩川精機(本社長野県)に勤務する工藤さんは「大学の4年間で問題を一つ一つ解決していく過程の大切さを学んだ。これからもその思いを忘れずものづくりに励みたい」と意気込みを語った。

電気学会優秀論文発表賞に輝いた工藤さん

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」